

元気を語るまちづくりフォーラムを開催

加東市総合計画の策定に向けて

七月二十八日に、やしろ国際学習塾において、市民が一堂に集い、まちづくりへの意見を交換しながら、思いを共有し合う「元気を語るまちづくりフォーラム」がまちづくり市民会議主催のもとで開催されました。

市では、これからのまちづくりの指針となる「加東市総合計画」の策定に向けて、市民のみなさまと力を合わせ、協働の計画づくりを進めています。このフォーラムは、計画づくりに市民の立場として参加している「まちづくり市民会議」が市民の視点に立った計画づくりを目指すため、これまでの活動を通しての思いや成果をみなさまと共有しながら考える「まちづくりへの提言の場」として開催されたものです。

当日は、加東市総合計画審議会会長で兵庫県立大学教授の田原直樹さんによる基調講演と、パネルディスカッションが行われました。

パネルディスカッションの主な内容

【コーディネーター】

兵庫県立大学教授 田原直樹さん

【パネリスト】

行政代表 山本廣一市長

まちづくり市民会議座長 森田啓之さん

まちづくり市民会議 「文化・協働部会」 出井和典さん

まちづくり市民会議 「安全・安心部会」 前田友子さん

まちづくり市民会議 「活力・快適部会」 福田 歩さん

【テーマ】
加東の強さ、弱さをまちの元気にどうつなげるか

文化・協働部会からの提言

加東市は「多様な地域の文化」や「スポーツや生涯教育の団体」、「地域のコミュニティ」がたくさんありますが、組織や施設を支え、自主的に運営していくソフトと人材」がまだ不足していると思います。

市のホームページなどで、市民参加による情報収集の組織を立ち上げることで、市民の生きがいを創造し、地域のコミュニティを取り戻して、新たな文化を担う人材の育成にもつながっていくと考えています。

兵庫県立大学の留学生など異文化圏の人達との交流も、市独自の文化をつくるうえで重要な部分です。すべての「人と文化」をみんなで支え合うネットワークでつなげることで、市独自の文化と、いつでも誰でも利用し参加できる気風と人材をつくり上げましょう。

安全・安心部会からの提言

防災では、かとう安全安心ネット、CATV、地域の自主防災組織などを災害時にしつかり機能させるために、今ある組織や情報網を使って行政と地域住民のわかりやすい連絡網をつくり、すばやくもれなく情報が届くシステムづくりが重要です。また、住民・行政合同の防災訓練や、地域の学習会・避難訓練の実施、一人暮らしの高齢者、高齢者だけの世帯、障害のある方などの避難方法と支援する仕組みをつくっておくことなどが大事です。

を充実させることが大切です。子育て給付金の増額などの経済的支援も望まれます。

高齢者福祉では、高齢者が健康で生きがいをもち楽しい生活が送れるように、子育て支援などボランティアとしての活動、公民館活動、シルバークンセンタールへの参加など、まちづくりの担い手として活躍していただける仕組みづくりが必要です。



後の新しいまちづくりの進め方として、総合計画策定において何が大切か、地域自治の目指す方向などについて、「これまででは、公共サービスの作り手が行政で、受け手が市民であるという考え方があまりにも強すぎた。市民参画は、行政の下請けではない。市民も公共サービスを担うべきである。参画と協働とは、市民と行政が対等な関係にあつて初めて成り立つ。社会環境の変化が求めるあり方を市民と行政と一緒に考え、積極的に進めていただきたい。」と講演されました。

続いて、第二部のパネルディスカッションでは、「加東の強さ、弱さをまちの元気にどうつなげるか」、「地域を元気にするために市民ができること」、「将来像を実現する「まちづくり」のサブテーマを考える」の三つのテーマについて討議をしていただきました。

会場のみなさまも様々なご意見を用紙に記入してくださいました。それらを含めて、このフォーラムの成果を市民の行動指針として、総合計画の策定に生かしていく予定です。



会場の参加者からも提言をいただきました。

活力・快適部会からの提言

私たちの政策テーマ「暮らしと憩いが響きあふ心地よいまち」を目指すには、市最大の強みであるCATVでいるんな心の交流のきっかけをつくったり、いろんな企画に参加することによって「みんなの心が気持ちよく」なることだと思います。

また、「まちそのものが気持ちいい」ということも大切ですが、加東のまちがどこにでもあるまちではなくて、自然を大切にしながら何かここにしかないものを見つけたり、つくったりすることで、「住みたいと思えます」。

そして、まちを知り、アイデアを出し合うことにより加東ブランド、加東アイデンティティを確立し、まちへの誇りを持つことができれば、元気な活力あるまちにつながっていくのではないのでしょうか。

【テーマ】
地域を元気にするために市民ができること

文化・協働部会からの提言

市民一人ひとりが「自分ができること」で参加する「気持ちが大切だと思えます」。

文化会館を例に挙げると、小さなまちに三つのホールがある現状ですが、各々のホールで音の性格やキャバが違うので、できるイベントの幅は広がります。第一これらは既にあるのですから有効に活用していくことが大切です。

現在、一般業者に委託されているオペレーター運営を、市民で自主運営することも考えてはどうでしょうか。

私たちの税金で建て、既にある施設ですから、みんなが使いやすいように「市民自治の精神」で運営できればと思います。

安全・安心部会からの提言

安全・安心なまちをつくるために、市民ができる第一歩は、自分たちの地域に関心を持って、気持ちよく声をかけ合える関係を増やすことです。そして、自分たちの地域にはどんな危険があるのかをみんなで洗い出して、いざという

【テーマ】

まちづくりのサブテーマを考える

市の将来像を実現するために「市民のまちづくりに対する行動指針」「市民のまちづくりに対する目標像」として、次の3つの案を市民会議から提案していただき、会場のみなさまにもどのイメージが合うか投票していただきました。

文化・協働部会

山よし！ 技よし！ 文化よし！
夢がきらめく 元気なまち 加東
手をつなぎ 絆でふるさと 活かしていこう

安全・安心部会

山よし！ 技よし！ 文化よし！
夢がきらめく 元気なまち 加東
ささえあい 一人ひとりを大切にするまちへ

活力・快適部会

山よし！ 技よし！ 文化よし！
夢がきらめく 元気なまち 加東
故郷への誇りと絆を大切に みんな一緒に歩きだそう

ときにはどうすればいいのかをイメージするための話し合いを持つのもいいと思います。その中で、市民ができること、行政に要望することなどがきつと見えてきます。

活力・快適部会からの提言

新しく大きなまちになって「良かったな」とわかりやすいく実感できることとして、「市民の手による加東祭り」を考えればどうでしょうか。

今でも伝統ある祭り、楽しい祭りなど、たくさんありますが、市民の取り組みやまちのいいところの発表、まちのいろんなコンテンツも盛り込み、CATVを活用しながら加東にしかない祭りをつくり上げてはどうでしょうか。また、その実施に関するアイデアも市民が中心となって、子どもからお年寄りまで、民間から行政まで、広く集める方法を考えてはいかがでしょうか。